

「京都の歴史を歩こう！—紫野編—」

事前調査

福間 優華

2016年10月29日、京都府立大学文学部歴史学科・京都府立総合資料館主催の総合資料館寺子屋講座「京都の歴史を歩こう！—紫野編—」がおこなわれた。この遠足では「近代化する京都郊外」をテーマとして、紫野が近代以降どのように変化していったのか、地域の人々とともにさまざまな史跡や遺構を実際に歩きながら解説した。本稿では遠足の企画や史跡に関する調査など、学生が事前におこなった取り組みについて述べていきたい。

2016年5月26日のミーティングにおいて、遠足をおこなう地域を紫野に決定した。また6月16日のミーティングでは、「祭礼と民衆」をテーマとして遠足のおおまかなルートを定め、4つの班に分かれ、今宮神社・大徳寺・玄武神社・建勲神社・船岡山公園についてそれぞれ調査をおこなうことになった。

7月27日、各班が担当箇所について、京都府立大学付属図書館などの府内の図書館や京都府立総合資料館などで調査した内容を報告した。ここでの報告は書籍や論文など文献から得られた情報が中心であったため、「遠足」というシチュエーションを存分に活用し、現地を歩くことで歴史を体感できるような解説をするためにも、文献資料の調査だけでは不十分との指摘を受けた。それをふまえて各班では実際に現地に赴き、実見した上で注意すべき点などを確認し、準備をすすめていった。

9月2日、メンバーが現地に集合し予定コースを歩き、それぞれの場所で担当者が解説をおこなった。今宮神社境内の「あり須川橋」「大正二年十月新架」と刻まれた橋の欄干が、かつて東の参道に架けられていた橋の欄干であったこと、大徳寺には近世以前に設けられた掘跡が東門付近に残っていることなど、より現地の遺跡を重視した内容が報告された。他方、それまで各班が独自に調査をすすめていたこともあり、遠足全体のはっきりしたテーマや全体的なまとまりが見えづらいという問題も浮上してきた。そこでテーマを「近代化する京都郊外」と改め、それにもとづき再度論文や新聞、聞き取りなどを使って調査をおこなうことにした。

その結果、東向きに伸びていた今宮神社の参道が京都市電の延伸を受けて南向きになったこと、大徳寺の所有していた広大な寺領と塔頭群が明治維新の影響で大幅に縮小されたこと、船岡山公園は昭和初期の京都における都市計画の一端として設置されたものであることなどが明らかになった。また、メンバーのなかには紫野地域を流れていた有栖川・二俣川に着目し、流路の時代的变化や河川を利用した人々の生活について調査をおこない、これによって近代という時間軸だけでなく、それに紫野地域を結びつける空間的な広がりをもたせることができた。